

瓢集

七部注解之三

中村俊定文庫

文庫 18

1006

12

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

七部集
江解
集



瓢集



江南の好頼ありてを遂にこれに是の如きを
 ありて酒を毎に飲まざるは或をち惜むと
 りて江南をうたへてくるものも異なり
 吾も一たびのあはれはしとて用ひし事をよみ
 たりてあはれに眠るをいふに
 瑞雪をうたへて日月の秋きくをよみて
 雪のうたはのつきのあはれも
 ありて吾も知くもあはれをうたへてみれ
 風雪のうたをうたへて知くもあはれ

のまじりし乾坤のありし事
いふ事なきも毎日の用より入る

享福二年六月

知
越人

越人の紀後無事の時
漢人として居るものなり



莊子曰惠子謂莊子曰魏王貽我大瓠
之種我樹之成而實五石以盛水將負其
堅不能自舉也剖之以為瓢則飄落
無所容非不呬然大哉吾為其無用
培之莊子曰固於用大矣今子有五
石之瓠何不慮以為大樽而浮乎江湖
而憂其飄落無所容則夫子猶有
蓬之心也

後漢書列傳曰費長房者汝南之人也

曾為市掾有老翁賣藥掛一壺於肆
頃及市罷輒跳入壺中市人莫之見唯
長房於樓上觀之異因往再拜奉酒
脯知翁長房之意其補也謂之曰子明
日不更來長房且長房翁乃与俱入壺
中唯見玉堂巖所處

又漢志ハ水經の志の注に引く之又之魏詩
卷中ハ地乾坤の志を引く之

江の
の
砂
の
江
の
人
は
そ
の
せ
そ
の

あぢ果とそふ所なり

本
の
け
け
け
け
け

福

曾子之

珠碩

西上人の

亦つゝ旅をなれ
いふ山に海をきく風

勢山御所よりて讀むる御もやしもとて
 神もこれとてこれとてよめを御お越の大勢
 き一書を讀むとてこれとてよめを御お越
 意はつてとてあやめめめめめめめめめ
 意もよめめめめめめめめめめめめめ
 意もよめめめめめめめめめめめめめ
 意もよめめめめめめめめめめめめめ
 意もよめめめめめめめめめめめめめ

ていふまゝ

みうかき(り)は病後症の人の身をつなぎの
つれをさのてお降りしそをさつと観る

罪よりさういふは

能く野にさうは

罪の客にさうの人の身をつれさうの
うれ人(り)思ひやゆへは白くは地
能くさういふはさうの語はさうの
の能くさういふはさうの語はさうの

とは人(り)さういふは
お他(り)さういふは

と東(り)紀(り)の能くさうの

酒(り)さういふは

カクテ
項

と東(り)紀(り)の能くさうの
能くさういふは

と東(り)紀(り)の能くさうの
とは能(り)の能くさうの
たつらと後(り)
又(り)後(り)の女(り)さういふは

と東(り)紀(り)の能くさうの
と東(り)紀(り)の能くさうの

元貞

尚書曰父頑母嚚
德義經曰頑無智也

注：無法之

酒をたぐりて天宮に地をこき返すつ句をうけし
る此意妙に二代白兔園曰柏子ノ附也ト

能く六の月を除くまてさあけり

頑

かゝの抄佛は今も念佛

頑

ぬえの所い酒をこき返す人の教布き物也
月をのそく返り此をこき返す言に信よりん
た余情をこき返す
抄佛より今も念佛は昔時の新理より
双六の人と別なり

中よちろにぬえの月

愛

ぬえの月

愛

ゆめをこき返す

頑

月

愛

るるる

人此おぼえて主割りする人——老翁をよこし
海をこき返す双六の句に酒をこき返す人何れ酒を
のけりてこき返す人何れ酒をこき返す人何れ酒を
りてこき返す人何れ酒をこき返す人何れ酒を
情をこき返す人何れ酒をこき返す人何れ酒を

お念佛の所に戒律も以てしるは向佛
三昧の人とていふ。何のお佛よ、人へ他こそは
自念念佛三昧の人にもなれど、その上の学業を成さん
高上の道もなし、名利の害もなれて何ぞ
知得の者なり。又向のより、其心をもてきぬ
所あり。

心を里のなやまはなす人の思ふ心
 う眼あはらう——確のそと他より
 情しくあはれしそとくもつたし
 揺そむ——一更云ふぬ確の
 一句の磨鏡より——

花をいふも 花をいふも
 唯 阿る 阿る 阿る 阿る
 も 費の 費の 費の 費の
 花をいふも 花をいふも
 花をいふも 花をいふも

歌を記しはれしうへに
 多量もて端々秋情を露の如く
 一冊の紙の間に

讀書後事

夢のちやうどやうな

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

[illegible]

冠ハシ移多クモ
ヨセモノ

七
 一
 の
 う
 え
 に

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

冠より一階上へと云ふ

[illegible]

新晴

此乃海味也

草のやめとてふも花をみるはとて
 うらふとてふも人の情を
 つかふとてふも

い詠のふもしらうやまのま

珠碩

うたれて蝶の夢に是れ

る

雪に砂頭をうやめをきこむとさう彼を
うたうと詠もつとて年よりさうなるは
初をきこむといふに砂頭ゆて雪面さう
うたうと詠のふもしらうやまのま

根をきこむと詠のふもしらうやまのま
ことけうたうと詠のふもしらうやまのま

幅幅も七葉よつとてこたへて

活通

葉にうたうと詠のふもしらうやまのま

かゝる葉の通ぬ流る

全

葉の通ぬ流る

碩

いさうと詠のふもしらうやまのま
流る

秋のふもしらうやまのま

碩

秋のふもしらうやまのま

通

うきうきとわたりていふ少少

全

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

句のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

全

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

全

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

全

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

全

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

秋のふりそめたるやうにむすぶのまゝとけしきもな

うーうー 葉も実もいふは言

花のよきもの 物もいふは言

葉も実もいふは言と一句は言ておきぬ

うーうー 葉も実もいふは言

花のよきもの 物もいふは言

うーうー 葉も実もいふは言

花のよきもの 物もいふは言

うーうー 葉も実もいふは言

花のよきもの 物もいふは言

うーうー 葉も実もいふは言

樹くは言

花のよきもの 物もいふは言

うーうー 葉も実もいふは言

花のよきもの 物もいふは言

うーうー 葉も実もいふは言

花のよきもの 物もいふは言

うーうー 葉も実もいふは言

花のよきもの 物もいふは言

全

人の海を渡る

海やう木の夕を眺め

ききまふ山の中

海を渡る人ききまふ山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

いづれ海を渡る人の山の中

花雪をみる人の胎息

卷之四

人兮

折角と云ふは、
 此の所へ
 来るに
 宜しき
 所なり
 と云ふ
 意なり

城下

決杞のききく、早に卯月うね
砂の少者の疲ヤセてふし
野経
王東

数分も城下の路を走り野村をへ
 へ城下の道を行くは武原の集をへ
 足踏をよの穂も古るにけり月の光さ
 月夜をへ
 砂の麦北風は遠きよりきこえて目眩を
 けりさるはさのぐさ
 破屋はこころ
 古くもあはれ

日のうらさくや枯る

紙

わが命も人偏には命——
醫者も人偏には命——
心細きも人偏には命——
の姿も人偏には命——
枯るや命は人偏には命——

くさくさはる

木

くさくさはる

木

くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる

くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる

馬

木

一里

木

くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる
くさくさはる

春風得意時

山望の忠やまきり

言母の系、紙の接、女、時、空、を、い
絶

を句に軽く下百の錢物

月夜
石堂
高平
世碩

中
女の子も
姉弟も
よく
よく

[illegible]

く
丁石の海にさしに鏡を四つをてん
の所へてん
てん
てん

美しみの
 時めく
 とき
 許

山家の御あそびに
花やうなす
作のうた

を句にきく

月よりきくついでに都より来る

おとよのきくついでに都より来る

東 碩

あつちよりついでに都より来る。山家の坊主さまの
おとよのきくついでに都より来る。—— 翠この坊主さま
り。新余坊主さま
坊主の所い都より来る。—— 山家の坊主さまの
おとよのきくついでに都より来る。—— 山家の坊主さまの
おとよのきくついでに都より来る。—— 山家の坊主さまの

飲より酒のきくついでに都より来る

妙

おとよのきくついでに都より来る

經

酒の句い「^{サカキ}酒」や「^{サカキ}酒」おとよのきくついでに都より来る
酒の句い「^{サカキ}酒」や「^{サカキ}酒」おとよのきくついでに都より来る

おとよのきくついでに都より来る
おとよのきくついでに都より来る

おとよのきくついでに都より来る
おとよのきくついでに都より来る

東鑑曰為備後守心奉行博奕不更

經少江變之者於侍者可此許之
福永可令停之四一半錢目勝之
種之品能之論之下一向可令禁制
之由之作也

とさ いふはともちかき

記ふるは侍師の略 上

る性の句に鑑みし之は
と城にせられしるはともちかき
る性の句に鑑みし之は

記ふるは侍師の略
記ふるは侍師の略

さるは母出まの法也 碩

つとまらるは侍師の略 東

あふふふの所は記ふるは侍師の略
あふふふの所は記ふるは侍師の略
あふふふの所は記ふるは侍師の略
あふふふの所は記ふるは侍師の略
あふふふの所は記ふるは侍師の略

か風のふふ侍師の略

經

花のこころは 月よこし

州

から月を照らす花の影をまきとて 花のこころは 月よこし
ちきり花のこころは 月よこし ちきり花のこころは 月よこし
一花は 月よこし 一花は 月よこし 一花は 月よこし
むのこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
よこし
よこし 今にちきり 花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし
四多の影をまきとて 花の影をまきとて 花の影をまきとて
よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし

夕陽の月よこし 月よこし 月よこし

花

花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし

花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし

花

花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし

花

花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし
花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし 月よこし

花のこころは 月よこし 月よこし 月よこし

花

破を細月よ明く明く 卯

破を細月よ明く明く 卯
おいきりくさのり鉄の湯あはれぬをねく

松むくの松よあはれなるをねく 卯

田のちり陽よあはれなるをねく 卯

松村の松いよのちり松のちり細くちり
妻よのちり松のちり

おきりくさのり鉄の湯あはれぬをねく
卯

おきりくさのり鉄の湯あはれぬをねく
卯

おきりくさのり鉄の湯あはれぬをねく
卯

海にさへて金持と頼もさきふくや
松とさきふくや松と頼もさきふくや
さきふくやさきふくやさきふくや
別々松とさきふくやさきふくや

百姓の女松とさきふくや

里東
松志

少頃そ松とさきふくや

探志

少頃そ松とさきふくや

昌房

少頃そ松とさきふくや
妙に松とさきふくや
妙に松とさきふくや
妙に松とさきふくや

旅人の松とさきふくや
句と松とさきふくや
句と松とさきふくや
句と松とさきふくや

増師そ松とさきふくや

三秀

秋萩の少頃そ松とさきふくや

及肩

増師そ松とさきふくや
句と松とさきふくや
句と松とさきふくや
句と松とさきふくや

風雪の少頃そ松とさきふくや

三秀

そのうきとあつて 啼て—— 二番

秋萩のうきとあつて——いふゆゑに 玉の如きとせし
そのうきとあつて——泣けと能くもきこえていふやう

ものの中へ行くか海までの所 妙

初夜は船のまじり 舟へ行く 八

かまはしきにはいふやうなところの所へ——こゝろをいふ（金助魚）
とく 舟へ行くか海までの所へ——いふやうな
舟へ行くか海までの所へ——いふやうな
舟へ行くか海までの所へ——いふやうな
舟へ行くか海までの所へ——いふやうな

舟へ行くか海までの所へ

心の所へ行くか海までの所へ 舟

舟へ行くか海までの所へ 舟の所へ 舟

舟へ行くか海までの所へ 舟の所へ 舟の所へ 舟の所へ

舟へ行くか海までの所へ 舟の所へ 舟の所へ 舟の所へ

舟へ行くか海までの所へ 舟の所へ 舟の所へ 舟の所へ

舟へ行くか海までの所へ 舟の所へ 舟の所へ 舟の所へ

舟へ行くか海までの所へ 舟の所へ 舟の所へ 舟の所へ

重井の月よ心を焦——うつくもあつても
空らん四のふねあふまゝあつてくれいそん
りく少多啼——と
ゆえにわくの句をあるからうつくあつちふい
ゆへあふまゝうつくもあつてくれいそん
り地のねり

まゝうつくもあつても——肩

金^{カサ}——多羽の何あのに——他

やうな月よ心を焦——と

——まゝうつくもあつても——

たろめ——きねいあふの咽泣れん

花をうつくもあつても——喘

うつくもあつても——あ

花^{空境附}——うつくもあつても——

花をうつくもあつても——

花をうつくもあつても——

花をうつくもあつても——

其^{其人}人——花をうつくもあつても——

秋のうらさき 咲く 志

染るうらさき 秋のうらさき 咲く 志

其場附 秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

秋のうらさき 咲く 志

時そや苗代は角太師 雲

明はる辰野流の白 砂碇

夢をいそい田舎そ苗代は角太師のれを
行ふもさそきまを

つらや中をかくとて祐——れといそきまを

何れも流つち、そそきまを角太師のれを

幾れ——福の業、東より甲の時、まきや

ち何れも流つち、そ苗代のれを、怪の干しを中

まき——まき、いれ、誰やらの句は

角太師、井おつ時、いれ、まき

一連、いれ、まき、いれ、まき、角太師のれを

何れも流つち、そ苗代のれを、まき、いれ、まき

時、まき、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき

一連、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき

こきや角太師のれを、いれ、まき、いれ、まき

一連、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき

まき、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき

角太師のれを、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき

まき、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき

角太師のれを、いれ、まき、いれ、まき、いれ、まき

持振もやうくくさい分海味さとも破な
神苗はすももさなちなる種もたあきり
うらやま一句の魂をくし

後分を解せんも振るはるる——句を知られし服
のりきりあききなる後また大海流のちりなき種とそ
服もゆきいゝ衣海も押せ——うねり風のぬいもさ
のりきり

さうちのくさくさ——さうのさ
今

かきくあ——さうのさ
今

うらやまのさうさういふにいふか——さうのさ
今

持振もやうくくさい分海味さとも破な
神苗はすももさなちなる種もたあきり

四角のちのけこち柳板標り金持り

月影も利体のあききなるさ
今

あききさききさききさきき
今

利体のあききさききさきき

あききさききさききさきき

あききさききさききさきき
今

あききさききさききさきき
今

つらねて
ひきよめておぼろひにほのめしうらなひのしる

いぬとて大服もあはれき

袖あきも新新キヤボきり

ふね先もくさしいあや病は物の神もそのまゝ
物もきりきりの中も今いそよとけり
人こそは客ねくさしいさよふ男はかき
たも神のさよふさよふはねきもあはれ
さよふけりおぼろひのまじりきり

江戸酒も是頃度より

あつた入あ

江戸酒もいそよふさよふはねきもあはれ
江戸酒もいそよふさよふはねきもあはれ
いそよふさよふはねきもあはれ

江戸酒もいそよふさよふはねきもあはれ

江戸酒もいそよふさよふはねきもあはれ

江戸酒もいそよふさよふはねきもあはれ

江戸酒もいそよふさよふはねきもあはれ

江戸酒もいそよふさよふはねきもあはれ

る妻からちりちりといふ音がする

中堂にまゐるお殿の柱廻

石

飛騨の杖をひきぬ

寺

お寺に祈つてゐる

飛騨の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

まゐるお殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

お殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

道を通る人の姿を繪する

石

お殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

寺

飛騨の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

まゐるお殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

お殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

飛騨の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

石

お殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

寺

まゐるお殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

石

飛騨の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

寺

お殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

石

まゐるお殿の杖をひきぬの杖をひきぬの杖をひきぬ

寺

為任ハ芒ノヨセ
 少判ノ方少シ
 人折ノ方少シ
 紙折ノ方少シ
 少判ノ方少シ
 人折ノ方少シ
 紙折ノ方少シ
 少判ノ方少シ
 人折ノ方少シ
 紙折ノ方少シ

秋のゆくゝ
旅うけくゝ
葉花おのりくゝ
抱きかへし
九十九物話
のえき

此のこゝに綴るものはお前多分

ちんちん ちんちん ちんちん

破

明
 楊
 坤
 秀

あまのこ
あまのこ

や
ら
の
楓
の
子
あ
ま
る

しるは
多端に
て

碩

小野の馬場より切実考

其ぬきよりそふ奴僕の御もそふ女の所を

あつても 猫 師 になつてゐるのさうい
猫のちやうどさういふところからいへばさういふ
やうにゐるさういふところからいへばさういふ
やうの衣さういふところからいへばさういふ
さういふところからいへばさういふところからいへば
さういふところからいへばさういふところからいへば



